

台湾の研究機関におけるデジタルアーカイブおよびデジタルヒューマニティーズへの取り組みに関する調査

令和4年度協会海外派遣事業参加報告

琉球大学附属図書館

情報サービス課保存公開係長

富田 千夏



- 背景：デジタルアーカイブをめぐる諸問題
- なぜ台湾か：台湾における文化資源のデジタル化とその発信について
- 研修概要
- 調査報告
 - 1：利活用促進ための工夫
 - 2：長期維持のために何が必要なのか
 - 3：研究者との連携の在り方
- まとめ

背景

デジタルアーカイブの維持をめぐる諸問題

背景 1：経費捻出の難しさ

- システム構築時における経費
- ランニングコスト（保守経費、人件費）
- コンテンツデータに関する経費（解題・翻刻作成、マイグレーション、新規撮影、修復、他）
 - 定期的に膨大な経費がかかる
 - 有効期間が短い（数年単位）
 - 安定かつ継続的な経費獲得への壁

背景 2 : (頭打ちの) 利活用促進

- 研究利用 : すでに翻刻・刊行された資料
→使われているけど数字に出てこない
- 教育利用 : 講義での利用、学校教育への活用
→一部活用事例はあるが、発展途上
- 一般利用 : メディア等の利用、一般市民の活用
→ “古文書は難しい” “知られていない”

背景3：有効性をステークホルダーにどう示すか

- システムの有効性をどう可視化し、証明するか
PV数だけでは“使われている”とは言えない
研究成果・引用件数の把握→その方法は????
- 古文書の引用実績
戦前から活用されている→機械的把握が困難
- メディア（出版・映像等）の活用状況
手続き不要にすると実数は把握できない

なぜ台湾か

台湾における文化資源のデジタル化とその発信について

なぜ台湾か①

- 国家プロジェクト：「国家文化記憶庫」
- 学術利用以外の活用にも積極的：あつまれどうぶつの森

→画像・テキストデータの公開だけでなく公開された史資料の画像・テキストの活用



「あつまれどうぶつの森」での活用例

なぜ台湾か②

- 長年活用されているデータベースが多い
データベースは研究者の成果のひとつ
データを「活用」した成果公開にも積極的
- 利用実績の評価等をどうやっているか？

英語以外の言語による人文系研究における利用実績や評価をどのように集約しているかを知りたい

→欧米より東アジアの事情を知りたい。

特に知りたかったこと

- デジタルアーカイブを長期維持するための工夫
もっと利活用してもらうには！？
利活用の実績が目に見える形にするには！？
- 図書館の役割・研究者との連携
システムの管理、プロジェクトの進捗管理等など
様々あるが、それ以外の役割は？

研修の概要

- 令和4年11月19日-11月20日：学会参加
- 第18回中琉歴史関係国際学術会議（オンライン）
- 令和5年2月13日～2月17日：現地調査
 - (1) 国立台湾大学：図書館、数位人文研究中心
 - (2) 中央研究院：台湾史研究所文書館、数位文化中心
 - (3) 他：故宮博物院・台湾博物館・国家図書館



※台湾大学歴史学系の客員研究員として渡航

国立台湾大学図書館



- データベース名

台湾大学図書館数位典藏館
公開中のコレクション：55

- 組織

特藏組 スタッフ 8名

(デジタルアーカイブ担当)

(2023年6月現在)

国立台湾大学数位人文研究中心



- 公開コレクション数：32
- 公開工具：12
- 研究用プラットフォーム：有
- 組織

ディレクター 1名

スタッフ 7名

パートタイムスタッフ 数名

(2023年6月現在)

中央研究院台湾史研究所文書館



- 主要なコレクション
 家族與民間文書
 個人文書與集藏
 機構團體檔案（連携機関資料）
- 組織
 主任（館長） 1名
 スタッフ 約20名
- 特色 連携機関所蔵の資料が多いため、アクセス権限がいくつかに分かれている。

（2023年6月現在）

中央研究院數位文化中心



- 研究用プラットフォーム：有
- 組織

召集人 1名

副召集人 3名

執行秘書 1名

研究助技師 1名

其他計畫主持人等

(2023年6月現在)

今回の調査で得たこと

利活用の工夫

- SNSの活用
 - 台湾大学図書館： Facebook上のイベント開催
- 文具、映像作品等を通じたプロモート等



国立台湾大学図書館提供

データを活用した研究への支援

- 研究者自らがITの専門家の助けを借りることなくデータを処理し、分析やその結果を可視化
- 台湾大学数位人文研究中心
 - テキストデータ → 固有の情報（人名・地名・職名等）のマークアップ → 機械可読可能なXML → 分析・可視化
- 中央研究院数位文化中心
 - 「漢籍全文資料庫」の他、「中国哲学書電子化計画」「漢籍リポジトリ」等の連携機関のデータも活用

利用実績を「可視化」する

- 台湾大学数位人文研究中心の取り組み
利用引用実績の検索（手動）
引用統計資料庫
- 中央研究院台湾史研究所文書館
アクセス数・利用状況・研究成果
アカウント毎の利用状況の把握も可能
- 台湾大学図書館：研究成果一覧（田代安定文庫）



システム面では対応する

- 台湾大学図書館
オープンソース (OmekaS) の利用
図書館システム上で資料を公開



すべて国立台湾大学図書館提供

所蔵機関と研究者の連携

- 台湾大学図書館

「伊能嘉矩文庫」「田代安定文庫」等

→研究者との連携による整理作業

- 技術協力による協働・連携

台湾大学数位人文研究中心

中央研究院数位文化中心

→台湾大学図書館や故宮博物院等との連携

まとめ①

- 政府主導による文化資源のデジタル化と公開
→ある程度予算的な後押しはあれど…
- 認識される課題は日本と共通
システムの有効性の可視化
長期的な維持管理のありかた
- 引用情報・システムを活用した研究の情報収集
→工夫はすでに行われている
- データを公開する→データを使う・活用する

まとめ② まずはできること

- 引用情報収集の方法の検討
- 「データを研究に活用する」方法の模索
すでにあるテキストデータの活用は？
- SNSを通じたプロモート：YouTube、Twitter
- 教員との連携：市民講座、大学教育への活用

ご清聴ありがとうございました



参考文献

- 稲石奈津子・神谷敏郎「人文・社会科学系の研究力可視化に向けたとりくみ」『学術の動向』23(10), 2018年
- 後藤真「特集1 人文・社会科学系研究の未来像を描く-研究の発展につながる評価とは-」『学術の動向』23(10), 2018年
- 大谷周平, 富田千夏「琉球大学附属図書館のデジタルアーカイブ事業」『沖縄県図書館協会誌』no. 22, 2019年
- 桜井有里, 住本研一「[A25]デジタルコンテンツへのDOI付与のすすめ:日本をつなぐ~アクセスをいつまでも~」『デジタルアーカイブ学会誌』3(2), 2019年
- 後藤真「人文学の研究を可視化し未来につなぐための評価とその指標」『大学出版』121号, 2020年
- 「3か年総括報告書 我が国が目指すデジタルアーカイブ社会の実現に向けて」(デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会, 2020年8月19日)
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/pdf/r0208_3kanen_houkoku_honbun.pdf
- 富田千夏「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブについて」『琉球沖縄歴史』3, 2021, 122-127頁。
- 永崎研宣「デジタルアーカイブシステムにおける標準化技術」『情報の科学と技術』71(4), 2021年
- 大井将生「デジタルアーカイブの教育活用をめぐる可能性と課題—実践を例に—」(カレントアウェアネス No. 352 2022年06月20日) <https://current.ndl.go.jp/ca2018>
- 科学技術・学術審議会学術分科会人文学・社会科学特別委員会「人文学・社会科学の研究成果のモニタリング指標について(とりまとめ)」2023年2月7日